

目的 都市生活者を対象とする生活設計(論)は、設計の課題(テーマ)や、設計を導く価値についての理解が制約されがちである。この傾向が克服され、より豊かな生活設計(論)が展開することが望まれる。そのための手がかりを得るために、「農村女性にとつての生活設計」を問題にする。主な論点は、以下のとおりである。

①生活課題(問題、ヴィジョン)の広がり、問題視のされ方の把握。

②価値観の展開過程の把握。

なお、この実態調査研究は、いわゆる「仮説—検証」というよりも、「トピック—クリティック」の一環(トピック部分)をなす。

方法 ①については、農村女性を対象とするアンケート調査の自由記述部分から標本を採取した(約400例)。そして、課題の種類、予想されている人間関係、課題として訴えられるトーンなどに着目して、KJ法による分類を試みた。②については、自由記述分析をふまえて、個別面接調査を行なった。

結果 仮説的にではあるが、以下のことがらがあきらかになった。これらは、生活設計論にあらずなテーマと視座を示唆しているものと思われる。

①農村女性にとっては、いわゆる三大テーマ(住宅、教育、老後)よりも、“生活の近代化”や“生き方への確信”といったようなことがらが関心事である。

②不変(普遍)の価値が終始(生涯)を貫くというよりも、人、労働、自然などのかかわりのなかで、価値観が逐次(時間をかけて)醸成されてゆく。